



① 申請者		◎函南町・熱海市・伊豆の国市・伊豆市・河津町	
② タイトル			
(ふりがな)	ほとけいづるいのりのさと いず		
ほとけ出づる祈りの里 伊豆			
③ ストーリーの概要（200字程度）			
<p>伊豆の仏像は、奈良時代にはじまり、平安時代には各地にもたらされた。そこには、伊豆諸島の噴火への畏れや伊豆半島の自然信仰との融合の可能性、さらに中世にかけては修験道との関係がうかがえるものがある。</p> <p>鎌倉時代には、有力武士の北条氏と運慶が繋がり、力強い作風の仏像がもたらされた。今も多くの仏像が各地に伝えられ、温泉や食に仏教への親しみも感じられる。ほとけ出づる祈りの里、伊豆を旅すると厚い歴史をもつ仏像とその文化を愉しむことができる。</p>			
 河津町 南禅寺伝来諸像 (河津平安の仏像展示館)		 熱海市・函南町 十国峠 (日金山)	
 伊豆の国市 北条氏邸跡 と願成就院のある丘陵		 函南町桑原区 阿弥陀如来三尊像 (かんなみ仏の里美術館)	
 伊豆市 独鈷の湯			
④ 担当者連絡先			
担当者氏名	函南町教育委員会生涯学習課		
電 話	055-979-1733	FAX	055-979-1744
E-mail	gakusyuu@town.kannami.lg.jp		
住 所	〒419-0122 田方郡函南町上沢 81		



ストーリー

○ 伊豆半島に伝来した奈良・平安仏

伊豆半島の南部、河津町の南禅寺には、奈良時代の十一面観音立像と25体以上の平安時代の仏像がもたらされた。東日本で奈良時代の仏像が確認できるのは稀である。なぜ、都の中心でもないところにこれほどの仏像が集まったのか。背景として、当時活発だった伊豆諸島の火山活動への国家的な畏れと加護を願う信仰があったと考える説もある。

伊豆半島は、南方に誕生した海底火山がフィリピン海プレートに乗って北上し、本州に衝突してできた半島である。このため、海底火山の痕跡が刻まれた変化に富んだ海岸線と、急峻な山地が特徴である。この伊豆半島において、平安時代には山間にも仏像がもたらされた。伊豆市金龍院の千手観音立像と不動明王立像は、もともと旭滝の下にあった瀧源寺に祀られていた。薬師如来坐像を本尊とする伊豆市善名寺は、伊豆最古の湯とされる吉奈温泉との関係がうかがえる。自然信仰と融合するかたちで仏像が伝わっている。



河津町 南禅寺 十一面観音立像
と薬師如来坐像（3D画像）



伊豆市金龍院
千手観音立像

伊豆市 旭滝

○ 修験道の地と仏像

伊豆半島の北部には、山岳信仰に仏教などが結び付いた修験道に関連した地に伝わる仏像がある。

函南町桑原区では、複数の寺院や御堂にあった仏像が明治時代にまとめられ、今に伝えられている。そのなかでも新光寺は、平安時代の建立の記録がある大寺で、箱根権現に向かう道筋にあり、開創の由来からも箱根権現との関係がうかがえる。当地では、本尊とされる薬師如来坐像などが伝わる。

熱海市と函南町にまたがる日金山は、古くから霊山とされ、中世以降は、箱根権現と伊豆権現（伊豆山権現）を結ぶ道の中継地として、十国峠が霊的な場とされた。伊豆権現は、日金山に鎮座していたものが本宮山を経て現在の伊豆山神社の地に遷座されている。この地は、走湯権現とも呼ばれ、温泉が神聖視されていた。この伊豆権現と箱根権現は、「二所権現」として関東武士の信仰を集めた。現在、伊豆山神社には、走湯権現立像などが伝わる。



函南町桑原区
薬師如来坐像

熱海市伊豆山神社
走湯権現立像

○ 鎌倉時代の仏師の活動

鎌倉時代を代表する仏師と言えば運慶であろう。運慶を含めた慶派は、奈良の興福寺などで活動する仏師の一派で



函南町・熱海市 十国峠（日金山）

あるが、その慶派の仏像が、伊豆には多くもたらされている。平家滅亡から1年後の文治2年（1186年）、源頼朝の岳父である北条時政の発願により、運慶は伊豆の国市の願成就院に伝わる仏像群を造像した。

慶派の仏師である実慶は、函南町桑原区の阿弥陀如来三尊像や、伊豆市の修善寺にある大日如来坐像を制作している。また、慶派に連なる仏師とされる法眼印照は、伊豆の国市の国清寺にある金剛力士立像を手がけている。さらに、北条義時が創建した伊豆の国市の北條寺にある阿弥陀如来坐像、熱海市伊豆山の宝冠阿弥陀如来像及び脇侍像なども慶派の作風を伝える。このように、伊豆の各地に慶派仏師の仏像があり、東国における武士との関係を強めた慶派仏師の活動の広がりを確認することができる。

慶派は写実的な造形を追及し、とくに運慶は、写実的表現を発展させて、生き生きとした表情、筋肉質な体躯、躍動感ある衣文を特徴とする力強い作風を確立させた。こうした作風は、武士の精神性や理想像と深く共鳴した。

○ 仏像の継承と仏教文化への親しみ

室町時代から江戸時代になると、地域に仏教が定着し、専門仏師とは異なる地元の素朴でのびやかな造形の仏像も生み出された。そして、寺社のみならず地域の人々によって、今も多くの仏像が守り伝えられている。

河津町谷津区の河津町平安の仏像展示館と函南町桑原区のかんなみ仏の里美術館では、地域に伝えられてきた仏像群を自治体と住民により保存・公開している。さらに、函南町では地元企業により商品「あみにょん焼き」が開発され、地域の活性化に一役を買っている。一方、伊豆では民間の美術館においても、仏像の保存と公開のほか、伊豆を中心とした仏教文化の魅力発信を担い、地域の文化振興にとって重要な役割を果たしている。

伊豆には、信仰の対象となった自然が今も残され、弘法大師が湧出させたと伝わる霊泉「独鈷の湯」など観光スポットも多い。また、「国清汁」や「天城甘茶」といった仏教と関連のある食文化も親しまれている。伊豆半島には、ほとけが出づる祈りの里がある。伊豆を旅すると、奈良・平安時代、鎌倉時代、さらに江戸時代に至る厚い歴史をもつ仏像と仏教文化を愉しむことができる。



伊豆の国市 北条氏邸跡と願成就院のある丘陵



函南町桑原区
阿弥陀如来坐像
(3D画像)



伊豆市
修善寺
大日如来坐像



あみにょん焼き



上原美術館の
企画展示チラシ



伊豆市 独鈷の湯



国清汁



ストーリーの構成文化財一覧表

番号	ふりがな 文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
①	なんぜんじでんらいしよぞう 南禅寺伝来諸像 かわづちやうやつく (河津町谷津区)	国指定・町指定 (美術工芸品)	南禅寺堂に伝来した26体などの木彫群。大半が10～11世紀のもので、同系統の工房の継続的な造像が推定される。十一面観音像立像は奈良時代にさかのぼるとみられる。 ※公開情報は河津平安の仏像展示館のホームページで確認してください。	河津町
②	もくぞうせんじゆかんのりゆうぞう 木造千手観音立像、 もくぞうふどうみょうおうざぞう 木造不動明王坐像 きんりゆういん (金龍院)	県指定 (美術工芸品)	いずれも平安時代の仏像。千手観音立像は明治5年(1872年)に廃寺となつた瀧源寺の本尊と記されている。 ※住職不在の際は拝観できません。	伊豆市
③	あさひだき 旭滝	未指定 (名勝)	朝日を正面から受ける位置にあり、高さ105mの岩肌を段々に流れ落ちる。玄武岩の柱状節理が美しい。かつて滝のそばには普化宗の瀧源寺があった。	伊豆市
④	もくぞうやくしによらいざぞう 木造薬師如来坐像 ぜんみょうじ (善名寺)	県指定 (美術工芸品)	吉奈温泉との関係が深い善名寺の薬師如来坐像。行基が三尊を安置したと伝えられているが、本像は貞観8年(866年)応天門の変で配流された伴善男の子孫が祀ったといわれている。 ※4月第1日曜日と10月第2日曜日に公開。	伊豆市
⑤	もくぞうしゃかによらいざぞう 木造釈迦如来坐像、 もくぞうぼさつぎょうりゆうぞう 木造菩薩形立像、 もくぞうざおうごんげんりゆうぞう 木造蔵王権現立像、 もくぞうてんぶぎょうりゆうぞう 木造天部形立像 ぜんみょうじ (善名寺)	市指定 (美術工芸品)	吉奈温泉との関係が深い善名寺に伝わる諸像。いずれも平安時代のものと評価されている。 ※4月第1日曜日と10月第2日曜日に公開。	伊豆市
⑥	もくぞうやくしによらいざぞう 木造薬師如来坐像、 もくぞうしよつかんのりゆうぞう 木造聖観音立像、 もくぞうじぞうぼさつりゆうぞう 木造地藏菩薩立像、 もくぞうびしやもんでんりゆうぞう 木造毘沙門天立像、 もくぞうじゆうにしんしよりゆうぞう 木造十二神将立像 かんなみちようくわはらく (函南町桑原区)	県指定 (美術工芸品)	函南町桑原区に伝わる平安時代の諸像。薬師如来坐像が最も古く11世紀半ば頃と推定される。十二神将立像は平安時代末期にはじまり江戸時代までの製作で12体が伝えられている。 ※公開情報はかんなみ仏の里美術館	函南町

			ホームページで確認してください。	
⑦	じっこくとうげ ひがねさん 十国峠 (日金山)	国登録 (記念物)	十国五島を望む山の景勝地。古くからの信仰の地で、中世以降、伊豆権現(伊豆山権現)と箱根権現を結ぶ信仰の道の要所として、あるいは死者の集まる霊山として知られる。	函南町・熱海市
⑧	どうぞうそうとうごんげんりゅうぞう 銅造走湯権現立像 (伊豆山神社)	県指定 (美術工芸品)	伊豆山神社に伝わる鋳銅製の像。権現は神仏習合の考え方で、仏や菩薩が仮の姿でこの世に現れたもの。背面銘文に明徳3年(1392年)の製作年や製作に係った人の名が記されている。 ※公開情報は伊豆山郷土資料館ホームページで確認してください。	熱海市
⑨	もくぞうじぞうぼさつざぞう 木造地藏菩薩坐像 (願成就院)	県指定 (美術工芸品)	寛喜の朱書銘があり、像容や製作技法から鎌倉時代の作とわかる。北条政子の7回忌の供養のため造像されたといわれ、政子地藏と呼ばれている。 ※拝観情報は願成就院ホームページで確認してください。	伊豆の国市
⑩	がんにょうじゅいんあと 願成就院跡	国指定 (史跡)	文治5年(1189)に源頼朝の奥州攻めの戦勝を祈願して北条時政が建てた寺院の跡。北条氏の本拠地である守山丘陵の東に位置する。地下遺構がのこり、仏像は現在の願成就院に伝わる。	伊豆の国市
⑪	ほうじょうし ていあと えんじょうじ 北条氏邸跡(円成寺 跡)	国指定 (史跡)	鎌倉幕府の執権として活躍した北条氏の館跡と北条氏滅亡後の円成寺跡。北条氏の本拠地である守山丘陵の北西に位置する。建物がのこっていないが、遺跡は北条氏の興亡を物語る。	伊豆の国市
⑫	もくぞうあみだによらいさんぞん 木造阿弥陀如来三尊 像 (函南町桑原区)	国指定 (美術工芸品)	墨書・朱書銘により実慶の作であることが判明した三尊像。面貌や体型、形状など写実的で力強い表現に優れ、鎌倉時代初期の慶派の特色を示す。蓮華座も当初のものである。 ※公開情報はかんなみ仏の里美術館ホームページで確認してください。	函南町
⑬	もくぞうだいにちによらいざぞう 木造大日如来坐像 (修禅寺)	国指定 (美術工芸品)	像内から承元4年(1210年)と実慶作の墨書銘が確認された仏像で、鎌倉時	伊豆市

			<p>代前期の慶派の特色を示す。男性的な面貌や肉付きよい体型などが表現されている。</p> <p>※須弥壇に安置され、拝観は御簾越し。毎年秋に宝物殿に移す機会あり。</p>	
⑭	<p>もくぞうしやくかによらいざぞう 木造釈迦如来坐像 (修禅寺)</p>	<p>県指定 (美術工芸品)</p>	<p>大日如来坐像とともに修善寺に伝わる鎌倉時代末期の仏像。左手を膝の上に、掌を上に向けて置き、拈華微笑<small>ねんげみしょう</small>の故事に基づく禅宗式釈迦如来像で、宋風の影響が認められる。</p> <p>※指月殿内に安置され、拝観できる。</p>	伊豆市
⑮	<p>もくぞうしやくかによらいざぞう 木造釈迦如来坐像 (国清寺)</p>	<p>市指定 (美術工芸品)</p>	<p>仏殿に安置される仏像で、鎌倉時代の慶派の作とされる。表情や彫刻の細かさに仏師の技術が感じられる。</p> <p>※仏殿に安置され、拝見できる。</p>	伊豆の国市
⑯	<p>もくぞうこんごうりきしりゅうぞう 木造金剛力士立像 (国清寺)</p>	<p>県指定 (美術工芸品)</p>	<p>大ぶりの眼鼻の表現、両腕、両足の筋肉等に鎌倉時代の特色を示す。背板の墨書銘によって、延慶3年(1310年)と描門大式法眼印照という仏師が確認できる。</p> <p>※毘沙門堂仁王門に安置され、拝観できる。</p>	伊豆の国市
⑰	<p>もくぞうあみだによらいざぞう 木造阿弥陀如来坐像 (北條寺)</p>	<p>県指定 (美術工芸品)</p>	<p>引き締まった表情が特徴の坐像。像容や彫刻の特徴から、鎌倉時代の慶派仏師の製作と考えられる。</p> <p>※拝観受付 10～15時30分、水曜定休</p>	伊豆の国市
⑱	<p>もくぞうかんのんぼさつざぞう 木造観音菩薩坐像 (北條寺)</p>	<p>県指定 (美術工芸品)</p>	<p>阿弥陀如来坐像とともに北條寺に伝わる鎌倉時代末期の仏像。左足をおろし、右足を前にはずして座り、右手を後ろ手についてくつろいでいるような様子で、宋風を採り入れている。</p> <p>※拝観受付 10～15時30分、水曜定休</p>	伊豆の国市
⑲	<p>もくぞうほうかんあみだ 木造宝冠阿弥陀 如来像及び脇侍像 (伊豆山浜生協会)</p>	<p>県指定 (美術工芸品)</p>	<p>阿弥陀如来坐像は穏やかな作風で平安時代後期のものとされるが、脇侍とされている菩薩像は引き締まった面貌などの表現に鎌倉時代の慶派の特徴が指摘されている。</p> <p>※公開情報は伊豆山郷土資料館ホー</p>	熱海市

			ムページで確認してください。	
⑳	とっこ 独鈷の湯	未指定 (史跡)	弘法大師が発見したと伝わる修善寺温泉を象徴する湯。病父の体を洗う子を見て、独鈷で岩を削るとお湯が湧き出し、その湯で病が治ったと伝わる。 ※見学のみで入浴は不可。	伊豆市
㉑	こくしょうじ 国清汁	未指定 (無形民俗)	野菜や豆腐を具に味噌で仕上げる滋味深い汁物料理。精進料理の一つで、鎌倉時代から伝わり、郷土料理として地域の食文化に根付いている。	伊豆の国市
㉒	あまぎあまぢや 天城甘茶 (アマギアマチャ)	未指定 (無形民俗)	伊豆半島に自生するヤマアジサイの一種で、甘い葉からつくる飲料が釈迦の誕生を祝う灌仏会 <small>かんぶつえ</small> で釈迦像に注ぐ甘露として用いられる。天城は「甘木」に由来するとも言われている。	伊豆市・河津町



構成文化財の写真一覧



①南禅寺伝来諸像（河津町谷津区）



②木造千手観音立像、木造不動明王坐像（金龍院）



③旭滝



④木造薬師如来坐像（善名寺）



⑤木造釈迦如来坐像、木造菩薩形立像、
木造蔵王権現立像、木造天部形立像（善名寺）



⑥木造薬師如来坐像、木造聖観音立像、木造地藏菩薩立像、木造毘沙門天立像、
木造十二神将立像（函南町桑原区）



⑦十国峠（日金山）



⑧銅造走湯権現立像
（伊豆山神社）



⑨木造地藏菩薩坐像（願成就院）



⑩願成就院跡



⑪北条氏邸跡（円成寺跡）



⑫木造阿弥陀如来三尊像（函南町桑原区）



⑬木造大日如来坐像（修禪寺）



⑭木造釈迦如来坐像（修禪寺）



⑮木造釈迦陀如来坐像（国清寺）



⑯木造金剛力士立像（国清寺）



⑰木造阿弥陀如来坐像（北條寺）



⑱木造観音菩薩坐像（北條寺）



⑲木造宝冠阿弥陀如来像及び脇侍像
(伊豆山浜生協会)



⑳独鈷の湯



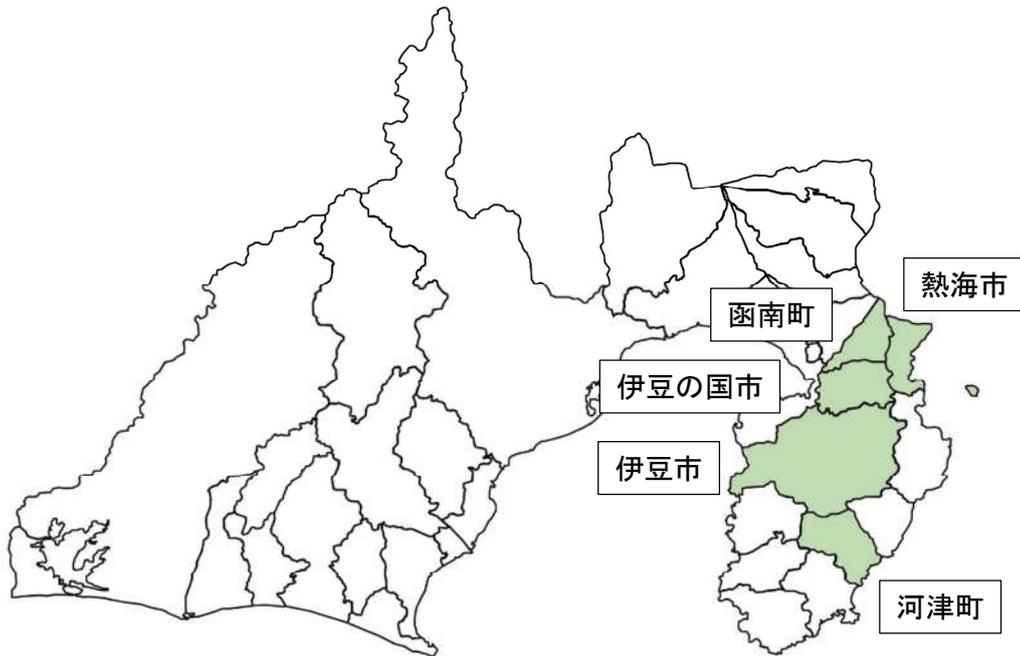
㉑国清汁



㉒天城甘茶 (アマギアマチャ)



市町の位置図（地図等）



構成文化財の位置図（地図等）



